

景況感は横ばい 建設業・サービス業が改善傾向 第175回中小企業景況調査(1月~3月期)

今回調査では、建設業とサービス業が牽引し、全体としては横ばいとなった。サービス業は、好調で売上・業況DIは、非常に強い結果を示しており、来期の見通しも良い。また、建設業も、前回からV字回復し、改善傾向を示している。一方、製造業は一進一退、卸売業・小売業の業況は厳しい状況が続いている。新春セールという需要の拡大の機会があったものの、物価高による消費者の節約志向は根強く残っている。全業種ともに慢性的な人手不足に陥っており、受注機会の損失が懸念される。3月から4月は、春休みシーズンや入学式、入社式等の購買機会が増えることや人の移動が活発になることから全体的な景気の押し上げに期待したい。

売上DI、業況DIともに、2期連続の悪化を示す 来期はやや改善を見込む
製造業

製造業の今期売上DIは2.9(前回14.7)とやや悪化した。業況DIもまた△8.8(前回0.0)とやや悪化となった。来期見通しの売上DIは、14.3(前回5.9)とやや改善、業況DIは、0.0(前回2.9)と横ばいとなった。

売上・業況の実績値が2期連続悪化し、来期の見通しも良いとは言えない。中国経済の減退による取引量の減少や原材料・人件費の上昇を価格に転嫁しづらい状況が続いている。

売上DI V字回復 来期も改善傾向
建設業

建設業の今期売上DIは4.2(前回△14.8)と大きく改善し、業況DIは、△8.3(前回0.0)とやや悪化を示した。来期見通しの売上DIは16.7(前回△14.8)と売上同様に大幅な改善を示した。業況DIは12.5(前回△3.7)と大きく改善を示した。

今期売上DIが、19.0と大幅な改善を示したうえ、来期売上DIの先行きも31.5と非常に強い上昇局面となった。

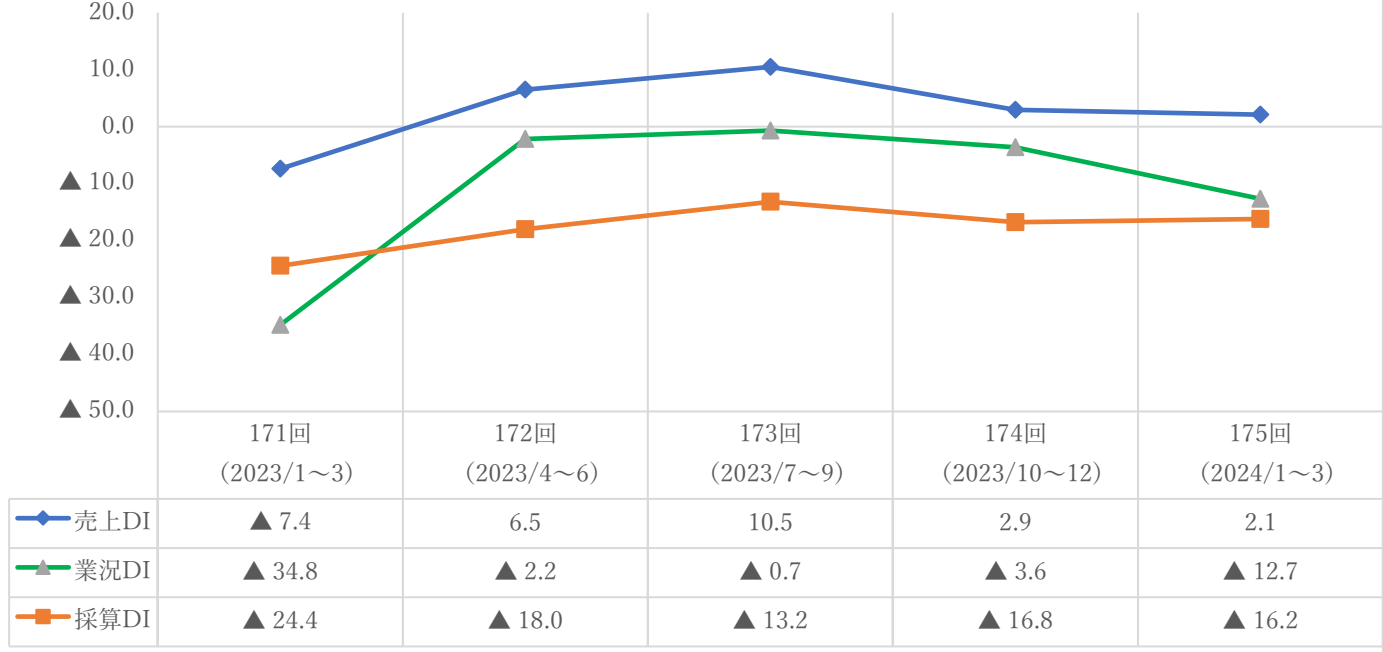
今回は、前回調査からV字回復となり、住宅や公共関連が好調に推移している状況が伺える。受注単価が上がり、売上の増加に寄与している一方で人件費や外注費、原材料等のコスト増が負担となる状況が続いている。

売上DI やや悪化 業況感は厳しい状況が続く
卸売業

卸売業の今期売上DIは△7.7(前回0.0)とやや悪化、業況DIは△26.9(前回△4.2)と大幅な悪化となった。

来期見通しの売上DIは、11.5(前回16.7)と横ばいとなったが、業況DIは△15.4(前回△8.3)とやや悪化となった。売上は前年並みを維持するも業況は厳しく、仕入価格の上昇が採算を圧迫している。なかなかコスト増を販売価格に転嫁できない状況があるうえ、人材の確保も課題となっている。

景況判断DIの推移



DI 値 (景気判断指数) = (増加・好転の回答割合) - (減少・悪化の回答割合)

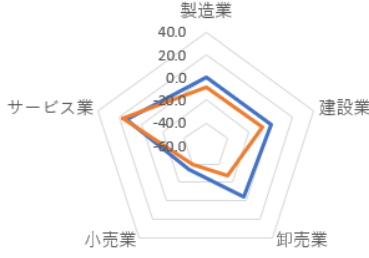
売上（今期実績）

— 前回 — 今回



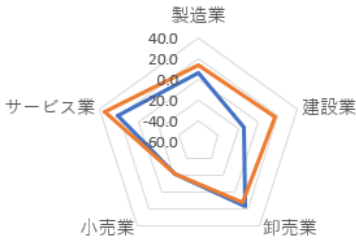
業況（今期実績）

— 前回 — 今回



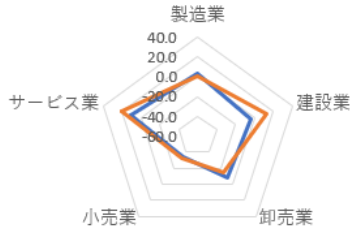
売上（来期見通し）

— 前回 — 今回



業況（来期見通し）

— 前回 — 今回



| 前回調査比 | 売上 | | 業況 | |
|-------|------|-------|------|-------|
| | 今期実績 | 来期見通し | 今期実績 | 来期見通し |
| 製造 | ↓ | ↗ | ↓ | → |
| 建設 | ↑ | ↑ | ↓ | ↑ |
| 卸売 | ↓ | → | ↓ | ↓ |
| 小売 | ↓ | → | → | → |
| サービス | ↗ | ↗ | → | ↗ |

凡例（少数点以下は四捨五入）

| ~-16 | -15~-6 | ±5 | +6~15 | +16~ |
|-------------|------------|-----|------------|-------------|
| ↓ | ↘ | → | ↗ | ↑ |
| 大きく減少 悪化 | やや減少 悪化 | 横ばい | やや増加 好転 | 大きく増加 好転 |

サービス業の今期売上DIは、27.6（前回17.2）とやや改善を示し、業況DIは17.2（前回13.8）と横ばいとなった。来期見通しについては、売上DIが34.5（前回20.7）とやや改善、業況DIは20.7（前回10.3）と同様にやや改善が見られた。高いプラス圏で推移しており、好調な状況である。客数が戻りつつある状況ではあるが、仕入単価やコスト増により、利益を圧迫しているものの子を見ながら価格転嫁し、客単価の減少を緩和している。今後は歓迎会や春休みが控えているため、継続することを期待したい。

売上DI・業況DI 今期・来期ともに改善傾向 プラスを強め、好調!!
サービス業

小売業の今期売上DIは、△17.9（前回△8.7）とやや悪化、業況DIは△39.3（前回△34.8）と横ばいとなった。来期見通しについては、売上DIが△21.4（前回△21.7）と横ばい、業況DIもまた△32.1（前回△34.8）と横ばいとなった。前回に引き続き厳しい状況が続いており、DIのマイナスの幅が大きい。消費意欲の低下により、購買金額の減少が影響していると考えられる。言うまでもなく、人件費の増加や仕入単価の上昇、運送費等のコスト増に加え、人手不足も解消されていない状況にある。これから入学や新入社員や社内異動等の引越シーズンが控えているため、来期の売上増加を期待したい。

売上DI・業況DIともに、今期・来期苦戦が続く
小売業

事業所からの声

- ・ 複数の取引先から同一時期に短期の発注が重なり、対応できず断ることがあり、売上が減少した。
(工作機械・製造業)
- ・ 日野自動車の工場ラインが停止。豊田自動織機不正の影響あり。
(自動車・製造業)
- ・ 人材不足、協力会社の確保に苦慮している。
(土木・建設業)
- ・ 雇用状況は悪く、退社する人はいるが入社する人がいない
(飲料・卸売業)
- ・ 購買単価が下がっている。円安やエネルギー関連の値上げに消費が追い付いていない。
(その他・小売業)
- ・ 求人募集しても調理、レストランサービスは集まらない
(宿泊・サービス業)
- ・ 原価、人件費上昇のため利益が出ない
(飲食・サービス業)